

声&メッセージ

松江市立第一中学校 保護者 北澤和也（きたざわ かずや）

我が家には子供4人がいます。この4人姉妹弟の長女が松江一中に入学したのが平成23年でした。入学式を終え、普段の学校生活が始まったころに聞いた学校の様子は次のようなものでした。「お父さん、一中すごいよ、椅子が上から降ってくるよ」とか、「お父さん、この前授業中に爆竹が鳴ったよ」などなど。内心、（大丈夫かいなあ）と思いつつも、表面上は「中学校はそんなもんだわや」と言っておきました（実際はそんなことはないでしょうが・・・）。その後、先生方のご努力や生徒たちの頑張りですこすこづつ落ち着いていき、2年が経った平成25年、長女が3年生になったときの、3年生を送る会当日の夜でした。長女が興奮した様子で『お父さん、私一中でよかったあー』と言ってきたのです。話を聞いてみると、先生方全員がAKB48のダンスを踊ったDVDが流れたというのです。そのときは『本当かあ、よかったな』と相槌をうつだけでしたが、後日、そのDVDを見る機会があり、はじめて長女が言った意味が分かりました。忙しい日々の仕事の合間を縫って、すべての先生が踊りを覚え、時間調整をして集まり、そして撮影を行う。これはすごいパワーが必要なことです。DVDの映像から伝わってきたこのパワーが、「こころ♡ほっとタイム」の原点なのだろうと思います。

このDVDを、同じ体育館で1年生として見ていたのが次女でした。次女は1年生のときから体験してきて今年で3年目になります。1年生のときの（わたしのジャガイモ）は、「新しいクラスで知らない人がたくさんいたけど、いろいろ分かってよかったよ」とか、2年生での（あいうえおロールプレイング）では、「先生が劇やって、すごい面白かった」と、よく覚えていました。次女がこの3年間で学んできた「こころ♡ほっとタイム」での体験が、本人にはまだわからないかもしれませんが、これから先たくさんの人たちと関わっていくうえで、とても大事なものになっていくと思います。世の中にはいろんな人がいますから、その人たちと上手に関わっていくのは結構難しいことです。大人でさえ、他人の気持ちを考えない言動をしたり、部下の頑張りをおもちゃから否定するような上司がいたり、自分さえよければいいという自己中心な人がいるのですから、子どもなら尚更です。そんな時、この「こころ♡ほっとタイム」で、よりよい人と人との関わり方の術を知っているということは、とても大きな財産だと思います。

三女は現在小学6年生で、姉たちから一中の話聞いて、早く中学生になりたいと言っています。松江一中に行くのをすごく楽しみにしているようです。この子も1年生のときから「こころ♡ほっとタイム」を体験していくんだなと思うと、親としても嬉しい限りです。来年の4月、どんなジャガイモで自己紹介するのか、また聞いてみようと思います。我が家の末っ子長男は小学3年生です。こいつが松江一中を卒業するのが平成33年。これからも当分、松江一中の「こころ♡ほっとタイム」と関わっていけそうです。長女のときからあしかけ10年。親としても貴重な体験になりそうです。